

平成26年11月27日

奥田九一郎名誉教授の Adolf Windaus
(アドルフ・ウインダウス) 賞メダル展示を開始しました

11月7日より、霞図書館において、奥田九一郎名誉教授が1992年に受賞された Adolf Windaus 賞メダル（複製）と、同名誉教授の業績等関連資料の展示を開始しました。

Adolf Windaus 賞とは、ビタミン D3 を発見し 1928 年にノーベル化学賞を受けたドイツの科学者 Adolf Windaus 氏を記念して設けられたもので、胆汁酸研究者に与えられています。奥田名誉教授（平成3年歯学部口腔生化学講座を定年退職）は、1992年に本章を受賞されました。

本展示は、このたび、奥田名誉教授から歯学部の本賞のメダルが寄贈されたことを受けて設置したものです。多くの学生が集う霞図書館のラーニングコモンズ（BIBLA Kasumi）での展示は、同名誉教授から送られた、未来の研究者への熱きエールにもなっています。

【お問い合わせ先】

学術・社会産学連携室

図書学術情報普及グループ（霞図書館） 萱野 靖子

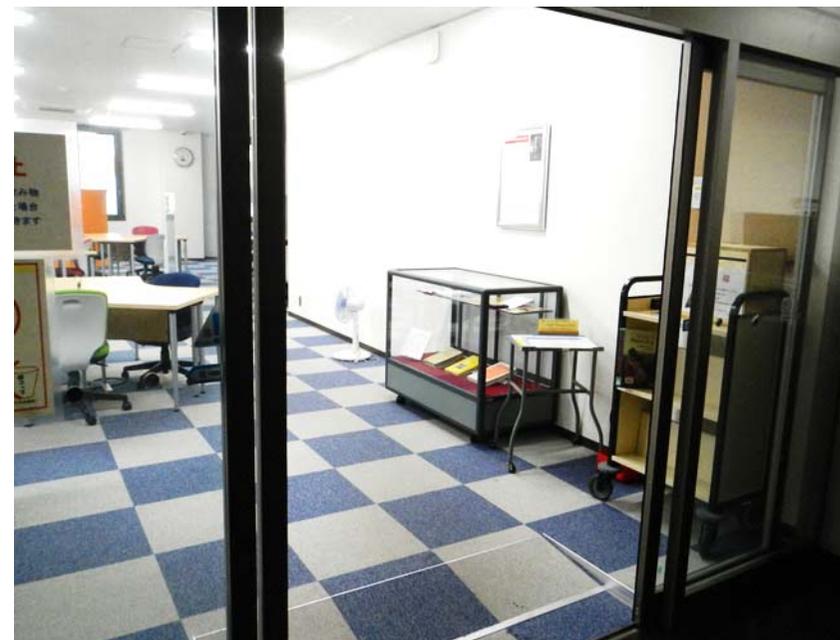
TEL:082-257-5901 FAX:082-257-5904

奥田九一郎名誉教授のAdolf Windaus賞メダル展示





(奥田先生の紹介パネル)



(展示ケース設置場所 1階ラーニングcommons入ってすぐの右側)



(紹介パネル及び展示ケース)

Adolf Windaus賞に寄せて

Adolf Windaus はビタミンD 3の発見で、1928年にノーベル賞を受けたドイツの化学者です。彼を記念して設けられたのがWindaus賞であります。

この賞はF A L Kというスイスの製薬会社がスポンサーになって1980年以降、昨年までに18名の胆汁酸研究者に与えられています。昨年までは“Bile Acids in Gastroenterology Basic and Clinical Advances”と言う題名で多くの論文が収録されていましたが、2014年からは題名を変更して XXIII International Bile Acid Meeting “Bile Acids as Signal Integrators and Metabolic Modulators”として10月8日からドイツ国 Freiburg の Konzerthaus で二日間開かれます。胆汁酸は単なるコレステロールの代謝産物と言うだけではなく Signal indicator として代謝性疾患や癌の治療や予防にも繋がることを全面的にPRしています。

そのような流れの端緒を開いたのはわれわれ広島大学のグループであると思います。清水一数野と続く日本の胆汁酸研究グループの勝利ではないでしょうか？

不肖私の名は1992年度Windaus賞 winner として、今年度の Preliminary Program に掲載されていますが、それは広島大学歯学部の口腔生化学の研究室と一緒に研究してくれた教室員たちのお陰であります。いまや広島大学霞キャンパスでは医歯薬保健学の大学院が一緒になった Graduate School of Biomedical & Health Sciences という素晴らしい組織が作られているそうですネ！

そこが中心になって、日本で代謝性疾患や癌の治療、予防の道が開かれることを切望します。清水一数野と続く胆汁酸研究の道は日本のみならず世界でも、ここ広島大学が一番長い歴史と業績を持っています。皆様のご奮闘を祈ります。

奥田 九一郎
2014年10月



奥田 九一郎
オクダ クイチロウ
Okuda, Kyuichiro

1954年

岡山医科大学卒業
岡山大学医学部副手
岡山大学医学部助手

1957年

岡山大学医学部講師

1960年

医学博士（岡山大学）
広島大学医学部助教授

1963年

米国ベイラー大学（客員助教授）（留学）

1964年

スウェーデン国カロリンスカ
研究所アマノエンス

1966年

広島大学歯学部口腔生化学講座
初代主任教授

1991年

広島大学を定年退職
広島大学名誉教授の称号授与
スウェーデン国カロリンスカ研
究所客員

1992年

Adolf Windaus 賞受賞

1993年

宮崎医科大学外科学第一講座
客員教授（～2002.3.31）

2010年

春の叙勲，瑞宝中綬章受章